

アロマターゼ阻害薬使用に伴う骨粗鬆症に対する支持療法の実施状況

青木 香奈¹⁾、丸尾 俊博²⁾、井上 祥平³⁾、片山 珠季⁴⁾、永野 悠馬⁵⁾、前田 守⁵⁾、長谷川 佳孝⁵⁾、月岡 良太⁵⁾、森澤 あずさ⁵⁾、大石 美也⁵⁾

- 1)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 高槻店
- 2)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 徳島大学病院店
- 3)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 ポートアイランド店
- 4)(株)アインファーマシーズ
- 5)(株)アインホールディングス

【目的】アロマターゼ阻害薬(以下、AIとする)によるエストロゲン(以下、Eとする)の合成阻害は、血中E濃度低下に伴う骨密度低下を生じ、骨粗鬆症(以下、OPとする)のリスクを増加させる。「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版」では、ビスホスホネート製剤(以下、BPとする)がAI服用患者の骨折リスクを下げるとされているが、その使用状況の報告は少ない。そこで、AI服用患者におけるOP治療薬の併用状況を調査した。

【方法】2017年4月から2020年10月に当社グループの保険薬局が女性から応需した処方箋32,226,402枚を対象に、AIとE受容体モジュレーター(以下、SERMとする)の処方動向とOP治療薬(BP、VD₃、SERM)の併用状況を調査した。また、作用機序が血中E濃度低下に寄与しないSERMとOP治療薬の併用を基準としたオッズ比を算出し、AI服用時のOP治療薬併用の程度を評価した。結果は、非高齢群(30歳以上60歳未満)と高齢群(60歳以上)に群分けした(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0090)。

【結果】AIの処方応需率は、2017年4月では0.47%、2020年10月では0.51%であった。OP治療薬併用率は、AI服用時は非高齢群で14.8%、高齢群で23.5%、SERM服用時は非高齢群で2.7%、高齢群で17.4%であった。AI服用時のOP治療薬併用の程度は、非高齢群はオッズ比6.34(95%CI:5.45-7.38)、高齢群はオッズ比1.45(1.31-1.61)であった。

【考察】AI服用時のOP治療薬の併用率は高齢群の方が高く、加齢によるOPリスクの増加の影響も考えられるが、その傾向はSERM服用時よりAI服用時の方が、高齢群よりも非高齢群の方が強く、年齢に関係なくAI服用時はOPに注意が必要であると考えられた。薬局薬剤師はAI服用患者へ定期的な骨密度検査の実施を促し、支持療法の提案等を行うことも必要と考える。

(第31回医療薬学会年会(2021年10月, Web)にて発表, 一部要約)